

都留市文化財保存活用地域計画

第3章「歴史文化の特性」の考え方について

実施していくべき措置（第7章）/実施していくべき措置に基づく方針（第6章）

具体的に「何をやるか」「やるべきこと」をイメージ・・・ここについては実際の事業展開を踏まえて2期目に変化していく



措置と方針を踏まえた「歴史文化の特性」の設定（第3章）

地元住民が言語化していないが暗黙知として持っている「都留」のイメージ+「何をやるか」の大枠として設定されるテーマ



「歴史文化の特性」の裏付け（自然環境や歴史概要）（第1章）

「歴史文化の特性」を裏付ける根拠となる内容



どういう人（ペルソナ）がいて、その活動やニーズなどをイメージして具体的な措置を考える

文化財の保存・活用の課題と方針・措置（第6章・第7章）を考えるうえでのステークホルダーのイメージ

とことん学び・伝えたい人	機会があれば知りたい人	地域のことは気になる人	あまり関心がない人	関心がほとんどない人
 68歳・元教員／郷土史研究会会員 都留市在住（長年）	 34歳・会社員 都留市在住（転入5年目）	 21歳・大学生（都留文科大学） 都留市在住（学生）	 45歳・会社員 都留市在住（20年以上）	 75歳・無職 都留市在住（長年）
 特徴・価値観 ・都留の歴史や文化財に深い愛着がある ・知識を深め、次世代に伝えたい ・地域活動やボランティアに積極的	 特徴・価値観 ・都留の自然や街並みに魅力を感じている ・日常の中で地域のことを知りたい ・子どもと一緒に体験したい	 特徴・価値観 ・地域のことに少し関心はある ・学びや活動につながることで興味湧く ・将来は地域に関わる仕事も考えたい	 特徴・価値観 ・文化財よりも生活や仕事が優先 ・地域のことは関心が薄い ・必要ときに情報があればよい	 特徴・価値観 ・文化財や歴史には興味がない ・今の生活に満足している ・新しいことに関心が向きにくい
 行動・関わり方 ・資料館や博物館に頻繁に来館 ・講座やイベントに積極的に参加 ・文化財の調査・保護活動に関わる ・SNSやブログで情報発信	 行動・関わり方 ・イベントや体験プログラムに参加 ・休みの日に家族で施設を訪れる ・SNSやチラシで情報をチェック ・地域の歴史にゆるやかに関心がある	 行動・関わり方 ・授業やゼミで文化財に触れる機会がある ・友人に誘われてイベントに参加することも ・デジタルで情報収集 ・自分ごとになると深く関わる	 行動・関わり方 ・特に意識せず生活している ・行政の広報や掲示で情報を知る程度 ・迷惑や制約がなければ気にしない ・子どもや家族の機会があれば参加	 行動・関わり方 ・文化財関連の情報に触れる機会が少ない ・特に意識せず生活している ・テレビや新聞など従来の媒体を中心に
 ニーズ ・専門的な学びの機会・資料へのアクセス ・活動の場や仲間とのつながり ・活動が評価される、支えられる仕組み	 ニーズ ・わかりやすく親しみやすい情報 ・家族で楽しめる体験・イベント ・アクセスや参加のしやすさ	 ニーズ ・学びや将来につながる情報・体験 ・同世代の交流や参加のきっかけ ・デジタルで手軽に得られる情報	 ニーズ ・生活に関わる情報が明確であること ・負担や制約が少ないこと ・興味を持つきっかけがあること	 ニーズ ・生活に必要な情報がシンプルに届くこと ・無理なく参加できる機会があること ・地域の魅力を実感できる体験

ステークホルダーの
気持ちや活動と
「文化財」を「つなげる」
のが行政の役割

■ 気持ち 「もっと調べたい」 「他の人にも知ってほしい」	■ 気持ち 「面白そう」 「また来たい」	■ 気持ち 「少し気になる」 「意外と面白い」	■ 気持ち 「時間があれば」 「子どもが行くなら」	■ 気持ち 「関係ない」 「健康イベントなら参加してみよう」
■ 行政ができること ・ ボランティア育成 ・ 調査参加機会 ・ 専門講座 ・ デジタルアーカイブ公開	■ 行政ができること ・ 家族イベント ・ スタンプラリー ・ ワークショップ ・ SNS発信	■ 行政ができること ・ デジタルコンテンツ ・ AR ・ 学生連携 ・ 大学との共同事業	■ 行政ができること ・ 買い物ついで展示 ・ 商業施設展示 ・ 防災・観光との連携 ・ QRコードで気軽に閲覧	■ 行政ができること ・ 健康×文化財 ・ 防災×文化財 ・ 福祉との連携 ・ 出前展示 ・ 地域サロン

➤ 都留の名前の由来「つる」 → 連想可能なキーワード「つながり」

「つる」の名前の由来

「富士山の裾野が蔓葛のように北へ長く延びている様を、縁起の良い嘉名の『鶴』に当てた」
「菊の生えた山の谷から流れ出る水を飲む人は、長寿を保って鶴のようである」

地形

土地そのものが他の
地域とのつながりの
中に形成されている
イメージ

水

富士山から川が流れ
人々の生活や文化
につながっている
イメージ

道

富士道をはじめ、
様々な道が他の道
へつながっている
イメージ

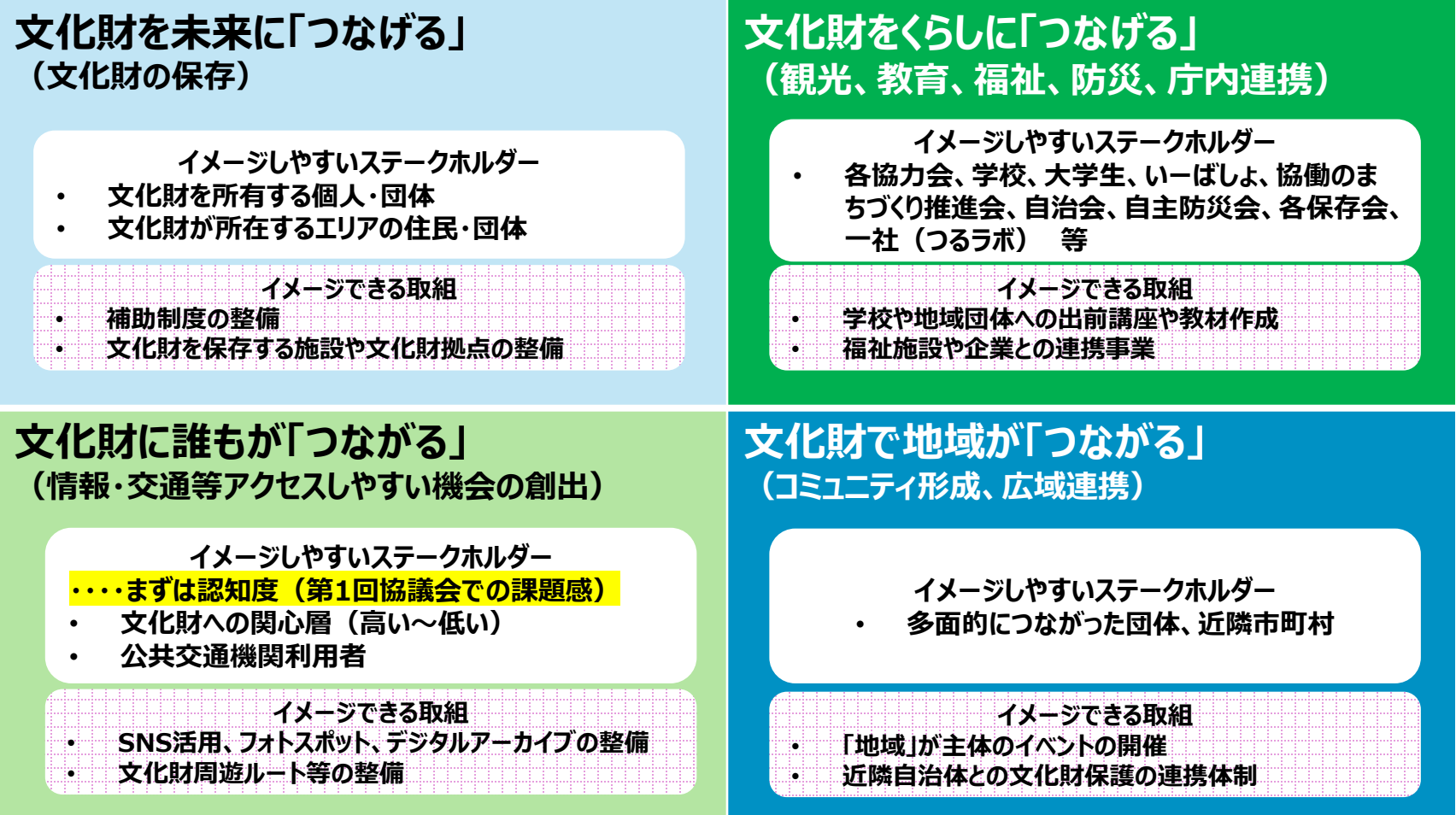
その他
(学び等)

興譲館から現在の
学園都市まで、学
びを通じて人がつ
ながってきた
イメージ等

健康寿命にも関わる
イメージ...

文化財の保存・活用の課題と方針・措置（第6章・第7章）から想定する「歴史文化の特性」

- ◆ 都留の名前の由来「つる」 → 連想可能なキーワード「つながり」
- ◆ 本市が目指すべき文化財の活用に伴いコミュニティ形成、ウェルビーイングや健康寿命にも親和性がある
→「つながり」を軸としてイメージできる方針（案）を設定
→措置により「文化財」の意識醸成や活動延伸につながる対象者や活動者（ステークホルダー）も紐づけ



方向性	ニーズや課題	方針	取組例【仮イメージ】
文化財を未来に「つなげる」 （文化財の保存）		既存事業として展開してきた文化財保護の業務については、継続するとともに、コミュニティの衰退や価値観の変化など、文化財を保護しづらい環境下において、ニーズ調査等を踏まえて必要な支援を展開	- 指定・未指定文化財の現状把握調査【新規・継続】 - 商家資料館の改修【継続】 - 周知の埋蔵文化財包蔵地調査【継続】 - 勝山城跡 - 文化財補助金等を活用した保存修理支援【新規・継続/拡大】 - 文化財の定期的な現況調査の実施【継続】 - 文化財の新規指定・登録や掘り起こし - 博物館施設における資料の保存と整理 - 文化財保存に係る担い手の育成
文化財に誰もが「つながる」 （情報・交通等アクセスしやすい 機会の創出）		「知らない」「生活に影響がない」層への文化財事業展開、文化財として認識をしてないがなんとなく活用したいと思っている層への窓口の充実化、情報発信の多用化（使用するツール、多言語化）、これまでにない文化財の活用方法、デジタル活用・・・	- 歴史資料のデジタル化・アーカイブ化 - 市内遺跡地図のオープンデータ化 - 未刊行報告書の刊行 - WEBなどのメディアを活用した情報発信の強化 - ユニークベニューとしての文化財の活用（食、映像、スポーツ、コンサート、アクティビティ） - 博物館基本的運営方針との連動
文化財を暮らしに「つなげる」 （観光、教育、福祉、防災、庁内連携）			- 文化財を活用した観光振興事業【継続・拡大】 - 文化財を活用した教育・研修事業【継続・拡大】 - 文化財を活用した福祉・防災事業【継続・拡大】 - 文化財を活用した庁内連携事業【継続・拡大】
文化財で地域が「つながる」 （コミュニティ形成、広域連携）			- 文化財を活用した地域活性化事業【継続・拡大】 - 文化財を活用したコミュニティ形成事業【継続・拡大】 - 文化財を活用した広域連携事業【継続・拡大】

【例】尾県郷土資料館への措置：イメージできる活動支援やステークホルダー

県指定文化財「旧尾県学校」を核として住民活動が行う
ステークホルダー：尾県郷土資料館協力会（主体・関心度高）/学校・地域住民（サブ）/その他の利用者（サブ）

支援項目	（具体的な支援）	スケジュール （5年：前期）	スケジュール （5年：後期）	4分類におけるイメージ	効果検証KPI ★どうなっていてほしいか
拠点の整備	耐震診断及び適切な改修・修繕	- 耐震診断 - 実施設計	耐震改修	文化財を未来に「つなげる」 （文化財の保存）	- 適切に保存されている （管理人を含む）巡視人材の設置
施設認知度の向上	- 展示・公開業務 - 資料のデジタルアーカイブ化 - Web発信の強化 - 資料館まつりの実施（ユニークベニューの一例）	- コンセプトに沿った展示内容の整理 - 資料館まつり（毎年） - 資料整理及びデータ - Web発信	- 資料館まつり（毎年） - 公開アーカイブの設置	文化財に誰もが「つながる」 （情報・交通等アクセスしやすい機会の創出）	1年に1回当館を利用する都留市人口が向上している
活動への支援	- 地域コミュニティ独自の文化展 - 文化財を活かしたまち歩き - 未指定文化財への看板設置 - 学校などの団体への教育普及	- 活動者の方針や手法を尊重した活動支援 - 学校現場への普及の実施	〃	文化財をくらしに「つなげる」 （観光、教育、福祉、防災、庁内連携）	活動を通じて活動者が生きがいを感じている 健康寿命の延伸につながっている
		地域人材の育成	〃	文化財で地域が「つながる」 （コミュニティ形成、広域連携）	地域が持続している

※イメージ※

【文化財】尾県郷土資料館と【ステークホルダー】尾県郷土資料館協力会を核として、
様々な個人・団体が有機的につながり、活動が継続していくエリアの支援

「措置」のイメージ

※「つながり」の要素から想定される「歴史文化の特性」のイメージ※



0. 全体特性（3つの歴史特性をつなげる総括のキャッチフレーズ）（作成前）

歴史文化の特性のイメージ

1. 水を起点とする地形形成、周辺地域、信仰などの人々のつながり
2. 道を起点とする地形形成、周辺地域、地域産業などの人々のつながり
3. 学びによって継承される人々のつながり

※「つながり」の要素から想定される「歴史文化の特性」のイメージの「言語化」※



0. 水と道、学びが人々の暮らしをつなぐ都留の歴史文化

歴史文化の特性（案）	歴史特性を構成する概要（案）（3～4行程度で計画に記載）
1. 桂川水系と湧水がはぐくむ人々の営み	桂川水系と支流のネットワークが急峻な河岸段丘に集落の展開をもたら し、「大堰」や湧水群とともに生活や産業を支える水景を形成した。その 水脈は地域社会の基盤として人々の営みや信仰を結んできた。
2. みちがつなぐ産業と文化	四方を山に囲まれた往来の中間点として、「富士道」や「近ヶ坂往還」な どの様々な「みち」は、郡内織・甲斐絹の流通、富士信仰や茶壺道中、 馬車鉄道に至るまで、時代ごとのヒトとモノの交流を形成した。
3. 世代を超える学びの継承	藩政期の寺子屋や旧尾県学校等の成立から公立大学法人都留文科 大学などの学園都市に至る学びの系譜が、世代を越えて知の継承と 人々の営みをつむぎ出してきた。

※その他の必要な項目は概要の後に続く説明で詳細を記入する予定※